

“絆”きずな

「活動・参加につながった事例集」の活用法

実務者研修会で訪問リハビリテーション振興財団・研修班が作成した「活動・参加につながった事例集」を活用しました。

事例集から【機能変化がない、または機能低下したにも関わらず、訪問リハビリテーションを受け主体的な生活に至った事例】をいくつか選び、選んだ事例の共通項についてグループワークで掘り下げて考えました。主催者側の予測した結論は「主体的な生活に至るためには成功体験が必要」でしたが、どのグループからも概ね同様の意見が出ました。

まとめとして「成功体験をして頂くためにはリハビリ専門職としてのSCPDAが欠かせない」と行動変容を提案しました。条件を絞って事例集を活用し有意義なグループワークを行うことができるとも良かったと委員一同自負しております。

静岡県訪問リハ・地域リーダー 不破本純子
静岡県言語聴覚士会 言語聴覚士

～南から始まる「訪問リハビリテーションの魅力紹介」～ 長野県

昔は自宅での機能訓練であった訪問リハビリテーション。しかし最近は難病、終末期、小児、退院直後等対象が大幅に増え、利用者が自宅で自分らしく過ごしていくかを心身共にサポートする業務になり内容が大きく変わってきました。その様な中、療法士としての評価、治療技術はもちろん必要ですが、利用者の家で関わっていく中でその人らしさを見つけ引き出す人間的な部分や、それらを活かしていくために多職種連携を行っていき、利用者本来の活動や参加を紡ぎ出していくのは訪問リハビリの醍醐味かと思えます。訪問リハビリはまだまだ制度面や地域の理解の面でも不十分な点が多く自分自身の無力さを痛感していますが、利用者に療法士が多様な手段で真正面から向き合う事が出来るのが訪問リハビリテーションの魅力と思い、日々業務を頑張っています。

長野県訪問リハ・地域リーダー 理学療法士 田中 凌平
飯田市立病院

訪問リハ・地域リーダーの“絆” ご当地紹介③ 佐賀県編

「在宅での日常生活に潜む障がいは、この地域包括バスカーで一撃だ！」「ダ・ダ・ダ・・・!!」地元の訪問リハ事業所全員で、“訪問シタインジャー”という演劇活動を楽しんでいます。その内容は至ってシンプル。在宅生活を送る上で障がいとなっているものを、訪問シタインジャー戦隊が現場（在宅・地域）に出向き、いろんな福祉器具や他職種とのネットワークを用いながら障がいを退治（克服）するという設定です。劇団を立ち上げた事由は、①人に伝える力を養う事。②人に笑顔を提供できる力を養う事。これらの要素は、訪問リハ従事者のみならずリハ専門職にはとても大事なスキルだと思います。私は本年度より佐賀県訪問リハ・地域リーダーとなりました。常に自立支援を念頭に置きながら活動をして行こうと思います。



左上：岩永 隆（PT） 右上：大川内直木（PT） 左下：末次智子（OT） 右下：石田有里（ST）

佐賀県訪問リハ・地域リーダー 理学療法士 岩永 隆
伊万里・有田地区医療福祉組合 特別養護老人ホームくにみ